

平成27年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491900039	事業の開始年月日	平成20年8月1日
		指定年月日	平成20年8月1日
法人名	社会福祉法人 興寿会		
事業所名	グループホーム 興寿苑		
所在地	(〒239-0802) 横須賀市馬堀町1丁目11番5号		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	平成27年11月2日	評価結果 市町村受理日	平成28年3月14日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・地域の方々との交流を大切に考えております。近隣からのご入居者もおり、ご家族もよく面会に来られます。

・地域の方々との交流を通じ、地域住民の一員として、福祉、医療、保健機関と連携図り、住み慣れた町で、個人の尊厳に配慮しながらその能力に応じた出来る限り自立した日常生活が安心して送れるよう支援しています。「自分が入りたいと思うホームにしよう」を目標に掲げ、ご入居者が、また、ご家族が「ここに来てよかった」と思っただけできるよう努めます。

・京急大津駅から徒歩6分と近く、また横浜横須賀道路浦賀インターチェンジも開通し、駐車場も完備しておりますので、お車での来苑も便利になりました。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成27年11月24日	評価機関 評価決定日	平成28年2月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】
事業所は、京急線の馬堀海岸駅と京急大津駅の間位置し、どちらの駅からも歩いて10分ほどの静かな住宅地にある。洋風2階建ての建物には、1階、2階それぞれのユニットごとに玄関があり、町内会に入っている。事業所は平成18年に開設されたが、平成20年に経営が社会福祉法人興寿会に移り、グループホーム興寿苑として開設した。

【自分が入りたいと思うホーム】
「自分が入りたいホームは自由を奪わない所にしたい」という理念により、外出や入浴は利用者の希望を優先し、排泄は紙から布パンツへの移行を勧めている。また、夏祭りなどの行事は、ご家族や利用者が一緒にビールで乾杯している。事業所はご家族との懸け橋になり、最期までご家族と利用者を支えたいと研鑽している。

【法人の強力なバックアップ】
社会福祉法人興寿会は、特別養護老人ホーム、デイサービス、ショートステイ、居宅支援、更に研究センターを開設し、研修講師を派遣するなど事業を展開している。毎月法人の研修会が行われ、「接遇」「重度化の対応」などの内部研修が事業所の介護力向上に活かされている。法人理事長や施設長は事業所の会議に参加し、職員の意見を直接聞く機会を持っている。それらにより、当事業所は常勤職員が多く、安定した職場環境となっている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム 興寿苑
ユニット名	グループホーム 興寿苑 1階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、グループホーム目標を掲示し、職員間で実践している。また、毎月のフロア会議時に利用者の思いに沿った支援が行われているか確認している。	開設時に職員で決めた8箇条の理念を集約し「自分が入りたいと思うホームにしよう」を掲げ、各階の事務所に掲示している。また、各ユニットで半年毎に職員全員にアンケートを行い目標を定めている。職員は理念に基づいた支援を行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	2世帯（1ユニット1世帯）として町内会に加入し、回覧板等で情報を得ている。地域の祭りや防災訓練にも参加し、また、当ホームの行事の際には、町内の方や民生委員等を招待している。	馬堀町1丁目町内会にユニット毎に加入している。利用者は回覧板や町内の掲示板をよく見ており、職員へ行事の情報を提供してくれる。地域の諏訪神社のお祭りや町内会の防災訓練にも参加している。また事業所の夏祭りにはご家族や地域の方の参加がある。今年度より、近隣小学校の体験学習を受け入れ、交流が始まっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民や民生委員等からの介護に関する相談を積極的に受け、支援・援助方法をアドバイスしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>年6回の運営推進会議を通じ、家族・民生委員・横須賀市と意見交換を行い、サービスの向上に努めている。</p>	<p>運営推進会議は行事に併せて年6回、計画的に開催している。町内会副会長、民生委員、家族が参加し、年1回横須賀市指導監査課職員が参加している。事業所の運営状況、活動報告をして意見交換を行っている。</p>	<p>行政もしくは地域包括支援センター職員の参加が年1回とありますが、より多く参加してもらえるよう参加への声かけを期待します。</p>
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>横須賀市との情報共有は、主にメールにて行っている。また、横須賀市の担当部署主催の講習会が定期的に行われており、意見交換を行っている。</p>	<p>要介護認定の代行申請時や生活保護受給者4人のケースワーカーなどと連携を取っている。市主催の研修会やグループホーム連絡協議会の研修、地域ケア会議などに参加している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当ホームでは、身体拘束を行わない方針である。但し、必要時には、「身体拘束等行動制限についての取り扱い要綱」にもとづき行う旨を会議にて周知・徹底している。	法人主催の研修と事業所内研修を行っている。1階玄関のみ防犯上施錠をしているが、利用者が玄関前に立つとセンサーで知ることができ、散歩などの利用者の希望を聞き、行動の抑制をしないよう配慮している。言葉の拘束については、更衣室に「禁句集」を掲示し、言い換えの指導を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止研修会には積極的に参加し、会議及び研修発表会にて職員に周知し、意識を持って虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について、法人全体の研修会（毎年5月）に実施している。 また、当ホームには、実際に成年後見人を活用されている方が2名いる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面接時や契約締結時、及び変更時には、十分な時間を用いて説明し、納得・同意を得ている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議やご家族面会時に、要望・意見を聞き、会議で話し合い、運営に反映している。	毎月、「與寿苑だより」を送り、利用者の情報や行事への参加を知らせている。家族から「草取りを手伝いたい」「演奏会をしたい」などの提案があり、ボランティアとして参加してもらったことがある。また「行事の際にアルコールが出ることを知らせてくれば、車では行かない」など行事参加への積極的な意見もあった。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のフロア会議にて、職員からの意見を集約し、管理者が法人本部の運営会議に出席し報告している。また総合施設長がフロア会議に出席し、法人全体で運営に反映している。	年2回の全体会議は法人理事長や施設長が参加するため、職員が直接意見を伝えることができる。今までグループホームでは私服着用に限定してきたが、特別養護老人ホームのユニホームを変えるのを機に、グループホームのユニホームも選択できるように話し合いを進めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	理事長または総合施設長が定期的に来苑し、いつでも話し合える環境を整えている。また、管理者・総合施設長・理事長が職員一人ひとりを適切に評価し、適材適所の配置に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人全体及びホーム内、また外部研修に積極的に参加できるよう勤務を調整し、個々のスキルアップを図っている。また管理者が中心となり、日常的に指導している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	横須賀市グループホーム協議会を通じ、他事業所との情報交換・交流研修・その他の研修会等に参加し、サービスの向上に努めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には、必ず本人宅へ訪問し、不安や思いを傾聴し、安心して、ホームでの生活が送れるよう事前に調整している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ホーム見学や事前訪問を行い、本人・家族から希望や思いを傾聴し、それ出来る限り応えることで信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要なケア（サービス内容）を入居事前面接等で直近の課題を把握し、体制を整え、お迎えするよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の意見を尊重し、人生の先輩として、様々な指導を受けている。また、意見も傾聴し、利用者・職員が協働で生活環境改善に努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族への報告・相談を密に行い、多角的な視点から支援できるように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者の生活暦を十分把握し、外出や面会の調整を行っている。また、駐車場や玄関周りを整備し、面会に来やすい環境整備している。	ほとんどの方が近隣に住んでいたため、散歩中に声をかけられることがあり、家族・友人らの面会も多い。利用者の希望で、市内にあるヴェルニー公園のバラを鑑賞したり、自宅にあった思い出の花を事業所の花壇で育てている方もいる。電話の取次ぎ、はがきの投函なども一緒に行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が孤立しないよう、職員が間に入るなど、利用者同士の架け橋になれるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もホームに立ち寄って下さり、様々な意見やアドバイスを頂いている。また、新聞紙や布類等、介護必要物品を提供して頂く等、関係性を維持している。		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の意向を尊重し、意思表示が困難な利用者に対しては、家族から情報を収集すると共に、日常生活・表情・態度等から、本人の意向を読み取るよう努めている。	入居前に自宅に訪問し、今までの生活歴などの記載をした「面接記録表」を作成し把握している。職員からの情報は「気づきシート」に記載し、個々の理解に努めている。外出時や入浴時など個別に聞いている話を職員間で共有しケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用前、本人・家族との入居事前面接をもとに、生活歴や在宅生活の経過の把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	引継ぎ（申し送り）を密に行い、身体・精神面での状況把握に努めている。また、各種記録表を活用し、情報共有を図っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスにおいて、様々な視点から意見を取り入れ、利用者個々の状況に合わせた介護計画を作成している。	毎月のユニット会議で利用者の状態や医療情報など基にモニタリングを行い、6か月毎に計画の見直しを行っている。退院時は、往診医や看護師、家族と共にカンファレンスを行い、ケアの確認をした。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌・ケース記録等にて情報を共有し、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にもまれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時間や外出（外泊）を規制せず、家族の生活に合わせた面会・外出・外泊を支援している。また、当ホームのリフト車を用いて、車椅子等の利用者の外出支援も行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の方々に、理美容・民謡・体操・お茶・踊り等の各種ボランティアの協力を頂いている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からの、かかりつけ医の継続や、当ホーム主治医への変更等、本人・家族の意向や状態を考慮し、適切な医療が受けられるよう支援している。	入居前からのかかりつけ医を受診している方が4名おり、事業所が通院支援を行っている。その他の方は事業所のかかりつけ医を受診している。毎週、訪問歯科と訪問マッサージ、看護師は来所する。24時間医療相談をする体制もできている。利用者の医療情報は「受診記録」で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ケース記録等で利用者の状況を記録し、看護職員及び協力医へスムーズに引き継げるようにしている。また、看護職員・医師からのアドバイスをもとに健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、協力医を通じ直接情報提供を行い、また、ホームより介護サマリを提供し、早期退院できるよう努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期における介護が必要になった場合に、指針に基づき当ホームでの対応できる範囲を説明・同意を得て、常に、医師・看護師及び家族との連携を図り、情報を共有し取り組んでいる。	契約時に「看取り対応に係る指針」を説明し同意を得ている。終末期に事業所での看取りを希望される場合は「看取り介護の同意書」を交わす。過去7名の看取りを行っている。看取り介護の基本理念を基に研修を行い、支援できる体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急対応マニュアルを用いて、対応するよう職員に徹底している。また、救急法の研修にも参加している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に（年2回）防災訓練を行うと共に、地域の方々にも協力依頼をしている。	今年度は10月に夜間を想定した避難訓練を行った。町内副会長が避難誘導で参加した。3月に消防署立ち合いでの訓練を予定している。非常災害時の水は3日分の備蓄があり、今は更衣室に置かれているが、法人本部より災害時用倉庫の設置が許可され、今年度中の設置を予定している。	非常災害時用倉庫の設置により、災害時必要な食品や備品などの備蓄が整えられることを期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者への配慮を心掛けた声掛けができるように、禁句集を掲示している。また、採用時に接遇に関しての研修も行っている。	法人は、認知症に関する研究センターを開設し、毎年合同で研修を行っている。日頃からの言葉づかいに留意し、できることを制限しないケアを目指している。個人情報に関する書類は施錠のできる書庫にて保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望・自己決定を尊重し、本人の意思やレベルに合わせた支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員と一緒に買い物や散歩等の外出や、入浴・食事時間等は、個々の生活リズムに沿った支援を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ボランティアによる理美容サービスに月1回来ていただいている。また、パーマ・毛染め等の希望の場合は、近隣の美容院まで付き添いを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者のレベルに合わせ、食事準備や下ごしらえ、後片付け等、職員と一緒にしている。	食事は、食材業者より毎日配達され、レシピを基に職員が調理している。職員は利用者と一緒に会話をしながら食事をしている。利用者も食事の準備や下膳などを行っている。イベント時は業者と相談しメニューを変更している。お誕生日はケーキを食べたり、夏祭りにビールを飲むこともある。外出した際に、利用者の希望で外食となることもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を法人の管理栄養士に確認していただき、指導を受けている。食事摂取量及び水分摂取量を都度、記録に記載し確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、週1回歯科医の往診時に個々の状況を確認していただき、口腔ケアの指導を受けている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、事前の声掛けや誘導を行い、オムツ使用や失敗を減らし、自立に向けた支援を行っている。	トイレでの排泄を支援するため、「排泄ラウンド確認表」で個々の排泄サイクルを把握し、時間で誘導している。その結果、7割の利用者が布パンツを使用できるようになった。トイレは各階に2か所あり、可動式手すりや突っ張り棒を設置し自立支援に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便の有無を確認し、食事・水分・運動等工夫している。また、主治医の指示のもと、緩下剤等の服薬介助を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	曜日・時間帯を決めず、利用者の希望に沿って入浴して頂いている。	週3～4回入浴している。利用者の希望があれば夜間でも対応し、毎日入る方もいる。希望の入浴剤や、家族が持ってきてくれる菖蒲やゆずをお風呂に入れて、季節を感じて頂いている。浴室は1階2階で浴槽の形を変え、2階は三方向から介助できる浴槽となっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の状況に応じて、適度な運動や散歩を取り入れ、日中、活動化する事により、夜間、安心して気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認や個々の服薬情報・副作用について職員間で共有し、把握に努めている。また、身体面・精神面での変化を常に確認し、主治医と連携している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の生活歴の中で、役割を見出し、日常生活の活性化を促している。また、季節感を味わえるイベントを実施し、気分転換を図っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	畑・庭園の手入れや散歩外出を促し、出来る限り戸外へ出る機会を多く作っている。また、一人ひとりの状態に合わせて、車椅子の方もリフト車で的外出を行っている。	利用者の個々の希望に対応し、駅前にある大型スーパーなどに出かけている。花見の季節は近所の公園に弁当持参で出かけ、花火大会は職員が場所取りをしている。事業所の近所は散歩できる環境であり、中庭では外気浴やバーベキューができる。法人の車で、車いすの利用者も一緒に遠出することもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理（預かり）はホームで行っているが、買い物等で支払う際は、ご自身に財布を持っていただき、一緒に支払いを行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	子機を利用し、自室で電話ができるようにしている。また、手紙の代筆を職員がするなどして支援を行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔面に気を配り、食堂には常に利用者が寛げるように配慮している。また、季節感のある装飾等で工夫している。	大きな熊のぬいぐるみが玄関で皆を出迎えている。対面キッチンからは、菜園のある庭に面した広い食堂兼リビングが見渡せる。室内は温度・湿度が管理され、清潔で明るい。1階は2階に比べると暗いため、食卓の椅子はピンク色にし、居室に向かう廊下は中庭からの光が入るような窓の設計となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアのテレビ前に、談笑できるスペースを確保している。また、屋外にもテーブルや椅子を置き、居心地の良い空間を確保している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	基本的に入居の際、本人の使い慣れた家具等を持参して頂き、居室内は本人・家族の意見を取り入れ、居心地良く過ごせる環境にしている。	エアコン、洗面台、押し入れロッカーは備え付けである。ベッド、カーテン、机、いす、テレビ、カレンダー、装飾品、写真などを飾り思い思いに過ごせる工夫をしている。また、居室は鍵の使用ができるため、利用者は鍵を持参している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーとなっており、トイレ・浴室・廊下等に手摺を設置する等、利用者個々の状態に応じたケアができるよう環境整備を行っている。		

